

令和7年度 野洲市の教育方針

はじめに

野洲市“はたち”からのチャレンジテーマ

「心ひとつに 仲間とともに 自分の花を咲かせよう！」

「**心ひとつに**」 幼稚園・学校（教職員・保護者）と地域住民等がコミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）等において、目標やビジョンを共有し、一体となって“子どもたち”を育てていきます。

「**仲間とともに**」 「生きる力」（端的には、仲間と学力・遊び）を育成し、幼稚園・学校という集団生活の中で高め合います。

「**自分の花を咲かせよう！**」 「自分の花」を咲かせることは、自分の夢や希望を仲間とともに実現（自己実現）することです。

毎日の学校生活を通して、教職員は、子どもたちの「生き方」に生きる勇気と夢を与え、子どもたちは、仲間とともに“自分の花”を咲かせるため切磋琢磨します。やがて、互いの個性や頑張りを認め合い、一生懸命に努力する子どもたちの姿は学校中に広がり、さらには地域からも愛される“学校文化”を創り出します。

野洲市は“人権尊重のまち”です。人権教育や特別支援教育を礎に、一人ひとりを大事にしながら、このまちに「住んでよかった」から「生まれてきてよかった」と思えるよう、「ふるさと“野洲”に愛着をもち、たくましく“生き抜く”力の育成」を目標にして、子どもたちの夢や希望が実現できる教育を進めていきます。

二つの“ぼう災”と二つの“そうぞう”で未来を切り拓く

昨年の1月1日に発生した能登半島地震から一年が経ちましたが、いまだ避難所での生活を余儀なくされている方が大勢おられます。能登半島地震やその後の豪雨により度重なる被害を受けられた方々が、明るい希望の持てる年になることを心から願うばかりです。

今年は、阪神・淡路大震災から 30 年、東日本大震災から 14 年。度々の地震の発生から私たちが学ぶべきことは、二つの“ぼう災”意識です。地震や災害など自然災害に備えた危機意識としての「防災（減災を含む）」と、この地震や災害を教訓にして忘れない学習としての「忘災」です。

学校や園は、集団生活の場です。毎日のように人間関係でもめたりトラブルが発生したりしています。しかし、子どもたちにとって、夢と希望のある輝かしい未来にするためには、二つの“そうそう”が大切です。

それは、「こんなことをしたら〇〇になると『想像』することで、仲間を思いやる、先を見通した行動をする。」ことと、「こんなふうになれば〇〇になると『創造』することで、より素敵な日常になる。」ということです。

本市には、この『想像』と『創造』を自分事で捉えて、たくましく成長している子どもたちがいます。その一人、中学3年生の園田回空さんが自身の課題と向き合い、成長を振り返って書いた作文があります。しっかりと「今」をみつめ、自分の生き方を綴っています。

マスクを通して感じたこと

野洲中学校三年 園田 回空

私は顔の見た目に関する先天性疾患をもって生まれてきました。この疾患は、日本では五百人から六百人に一人の割合で発生するものだそうです。これまでに幾度も手術、入院を繰り返してきました。治療後も発声の訓練や歯列矯正など今でも定期的に通院しています。自分の疾患と向き合えるようになってからは、手術をするたびに、見た目が少しでも変わることを期待していました。しかし、私が受けてきた手術は、正しく発音できるようにする、噛み合わせを治す等、機能を良くするものであって、見た目を優先するものではありませんでした。鏡を見るたび気になるのは、鼻の穴が左右で大きさが全然違うところや、口元にも目立つ手術痕があるところです。少しでも整えたいと思い手術もしましたが、顔に傷が増えただけでした。

新型コロナウイルスが流行りだした頃、マスクをする生活が当たり前になった時は、正直すごくほっとしました。自分の嫌いな口元を隠し、普通の人と同じようになれた様な感じがして嬉しかったのです。しかしその反面、マスクを外すことに対しての抵抗が、自分の中でどんどん大きくなりました。

小学六年生の時、十歳の少年が主人公の、ある小説を読み、読書感想文を書きました。その主人公は、私と同じように、顔に遺伝子の疾患があり、人とは違う顔で生まれてきたことで、学校でいじめられ、辛い毎日を過ごしていました。周囲の生徒たちは、ユーモアがあり、優しい彼の魅力にだんだんと気付きはじめます。いじめを乗り越え学園一の愛される人物になっていく姿を自分と重ね、勇気をもらいました。

物語の中で、校長先生の「彼の見た目は変えられない。我々の見る目を変えなくては。」という

スピーチが強く心に残りました。少年が変わるのではなく、周りにいる人々こそが変わるべきだという言葉は、私たちはしっかりと心に留めておかなければならないと思いました。少年を取り巻く様々な人の悩み、葛藤も描かれていました。自分の外見だけではなく、みんなの心の中も一人一人違って、みんなも普通ではないのではないか。しかし、それが個性というもので、誰もが認められるべきだと、少年も、私も気付くことができました。けれども、私は彼のようにまだ強くはなれないです。

誰もが自分の容姿に対して満足しているのでしょうか。もう少し、ここが、こうだったらと何かしらの欲があるのではないかと思います。私もそれ以上にコンプレックスを持っていて、できれば隠していたい。今も続くマスク生活は、私にとっては不自由なものではありません。周りとは違うのは当たり前のことで、それが私だと思うようにしていますが、本心では友だちの顔を見る度に羨ましいと思ってしまいます。

SNSが普及している今、たくさんの人が自分の写真をネット上で公開しています。「いいね」の言葉が欲しいため、少しでも見た目をよく見せようと写真アプリ等で加工する人が増え、自分の容姿を自由に修正できる時代になってきました。見た目や外見でその人を判断することはダメだとわかっていても、今の社会では、第一印象で相手を判断してしまう傾向があると思います。そのような流れを変えていくために私たちはどう考え、行動すればよいのでしょうか。相手の本質を知らないのに見た目だけで決めつけることはしないで欲しいです。みんなと同じ考えだから安心だという思いも捨て、周りに流されず、自分らしく過ごしていきたいです。誰もが生きやすい環境にするには、お互いのことを理解し合うことが大切だと思っています。これからひとりでも多くの人のことを知りたいし、私のことも知ってもらいたいです。

野洲市は、昨年(2020年)の10月1日に「市制施行20周年」を迎えました。「20年」という節目を重ねることで伸びていく竹のように、21年目を「成長が実感できる一年」にしたいと思っています。

＊「竹は節目で伸びていく」(元プロ野球監督：大沢啓二さんのことば)

令和7年度、野洲市では次の3つの視点で教育を進めます。

“咲かせよう!一人ひとりの夢の花”

1点目は、学校教育を中心に子どもの『生き抜く力』を育てます。

今日、子どもたちを取り巻く社会は目まぐるしく変化し、価値観の多様化が一層進んでいます。子どもたちが社会でたくましくしなやかに人生を切り開いていくためには、学力はもとより高い自尊感情や豊かな情操、それを支える健康な身体が求められます。

本市では、こうした子どもたちの資質や能力を学校・園が家庭や地域と協働し

て育んでいきます。

2点目は、学校と家庭、地域が一体となって『子どもの育ち』を支援します。

「学校の子は地域の子」です。子どもたちは、学校や園だけでなく、家庭や地域のみなさんに支えられて成長していきます。そこで、各学校・園のコミュニティ・スクールにより、学校・園を核として家庭や地域が協働して子どもの成長を支えていきます。

3点目は、『生涯学習のまちづくり』です。

だれでもどこでも学び合い、生涯にわたって成長し、心豊かに生きていく社会をめざします。また、その成果を人とのつながりや地域の活性化にも生かして、教育の面から野洲市のめざす「住んでよかった」「住んでみたい」「住み続けたい」まちづくりにつなげていきます。そして、だれもが人生を通して「生まれてきてよかった」と実感できるまちを目指します。

1. 令和6年度をふりかえって

市教育委員会では、『野洲市総合計画』や『野洲市教育大綱』のもとに、『野洲市教育振興基本計画』（令和3年度～令和7年度）を定めています。ここでは、基本理念「愛と輝きのある教育のまち・野洲」のもと、一人ひとりが大切にされ、おとなも子どもも学びあうひとづくり・まちづくりを目指してきました。

（1）学校・園

①心に響く人権教育の推進といじめの根絶

本市では、「人権尊重のまち宣言」を基本にかかげ、人権教育に力を入れて取り組んできました。しかしながら教育現場では、いじめや差別発言、SNS 上での誹謗中傷など、様々な問題が顕在化しています。すべての子どもたちの人権が守られ、安心して過ごせるよう、教職員全員が人権感覚を研ぎ澄ませ指導力の向上に努めていかなければなりません。このため、各教科、総合的な学習の時間及び特別活動などの全教育活動を通じて、子どもの心に響く人権教育を推進するとともに、差別を許さない集団の育成に取り組んでいます。

本市では、令和5年度「いじめ重大事態」が発生しました。「いじめ重大事態」の多くが、日常生活に起きている小さいいじめが始まりです。このような事態を2度と起こさないようにするために、教職員による積極的ないじめ認知と解消確認の徹底を行いました。今後も教職員のいじめに対するアン

テナを高くし、常に被害者に寄り添って物事を見ていくことが重要です。子どもたちが安心して学校生活を送ることができるよう、いじめ見逃しゼロを目指しています。

また、令和6年度は、弁護士を講師として招き、小学校ではいじめ防止授業を、中学校では SNS に関する授業を行いました。いじめは絶対に許されない行為であることを法律家の立場から訴えることで、児童生徒は自らの行動を振り返ることができました。

②不登校の課題

令和5年度の野洲市小学校不登校率は 1.87%、中学校は 6.85%となっています。小学校は滋賀県・全国より低く、中学校は全国平均よりも低いものの、滋賀県平均よりは高くなっています。全国的にも不登校児童生徒数は増加しています。背景として、教育機会確保法の趣旨が浸透し、保護者の学校に対する意識が変化したことと、特別な配慮を必要とする児童生徒に対する適切な初期指導や必要な支援に課題があったことがあげられます。本市の小中学校でも、無支援の子どもたちをなくすため関係機関と連携し、指導や支援を行ってきましたが、まだ十分とは言えません。

③全国学力・学習状況調査から

ここ数年の「全国学力・学習状況調査」では、本市の児童生徒は全国並みの結果となっています。学力面では、「複数の資料を読み解いて自分の考えをまとめ、根拠を示してそれを表現する力」に課題が見られ、授業の中で、要約や説明、話し合いなど言語活動を工夫していくことが大切になっています。生活面では、基本的な生活習慣は一定身につけているものの、意欲や創造性、協調性や忍耐力といった「非認知能力」の獲得には課題が見られます。総合的な学習の時間や体験活動等を通して、引き続き豊かな人間性を育んでいく必要があります。

また課題の一つに ICT の活用があります。「5年生（中学3年生）までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか」の回答に週3回以上使用したと答えた児童生徒は、小学校25.9%、中学校44.6%となっており、滋賀県や全国平均と比べても非常に低い傾向にあります。これは、教員側の利活用の格差が課題であり、今後研修や周知等を行い、ICT 活用の底上げを推進していく必要があります。

④教職員の資質向上

教職に対する強い情熱や使命感、子どもに対する愛情や責任感をもつ教職員の育成を目指し取り組んでいます。従来の研修形式にとどまらず、「人権感覚向上シート」や不祥事防止研修を定期的に行い、自分自身の言動を振り返り、次に生かす機会を設けてきました。また、教育の専門家としての確かな力量を身につけるため、グループ研修（OJT）や、学年会でスキルアップを目指し指導も仰ぎながら、若手教員を支え育ててきました。前年度より

継続して、教育研究所による若手教職員に対する個別指導（授業力向上）にも取り組んできました。

⑤施設面の更新

中主小学校新館棟の大規模改修工事を完了し、中主小学校のすべての改築・改修工事が終了しました。

また、祇王小学校体育館照明のＬＥＤ化等工事ならびに祇王小学校と三上小学校の特別教室空調設置工事を実施しました。

令和５年度に実施した北野小学校校舎増築等設計業務における成果品を基に、工事区分や工期などの事業計画を見直し、本館や体育館の長寿命化工事、仮設校舎や仮設計画など、工事発注に必要な設計図書の作成のため、修正設計業務を委託しました。

中主中学校の校舎改修等工事に向けて、建物の現在の状態を正確に把握し、必要な補修や強化措置を講じるために必要な耐力度調査を実施しました。

また、令和５年度から３か年度計画で着手している学校給食センターの施設改修工事について計画通り進捗しました。

（２）家庭や地域

①家庭教育の推進とその支援

家庭や地域は子どもの学びの土台である「生き抜く力」を育む大切な場です。しかし、地域のつながりの希薄化や核家族化の進行、保護者の就労による子どもに接する時間の減少や就労の不安定化による生活の厳しさなどから、地域で孤立した家庭や教育力が十分に整わない家庭もあります。こうした状況下で、教育が難しくなっています。

令和５年度から各小中学校に、令和６年度より各幼稚園にもコミュニティ・スクールを導入しています。そして、学校、幼稚園・地域・家庭の協働によって、地域や家庭が子どもの「居場所」となり、地域の「つながり」が豊かになることでさまざまな教育課題の改善が期待されます。また、「地域学校協働活動推進員」の配置（各校園１名）は、地域と学校、幼稚園をつなぐ核となっています。また、「家庭教育支援員」（９校１０名）は、不登校傾向の児童生徒の登校支援や保護者同士がつながる場の機会確保に寄与しています。

②地域の教育力と人材育成

全国的に「地域の子どもは地域で守り育てる」という意識が希薄になってきています。青少年育成市民会議やコミュニティセンター、自治会などとのつながりの中で子どもたちの育成を図ることはもちろんですが、一方で活動を担う人材の高齢化が課題となっています。コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進をしていく中で、人材育成の協議を続けていくことも大切です。

(3) 生涯学習

①生涯学習

地域の歴史や文化、健康などについて楽しく学べるよう住民の主体的な学習機会を提供し、学習成果を地域へ発信できる人づくりと活力ある地域づくりをめざす「生涯学習カレッジ」を実施しました。いずれも市内で活躍されている方に講師をしていただきました。今後も年齢やニーズに応じた学習機会の充実を図るとともに、各個人がその学習の成果を地域で活かせる環境づくりを広げ、リーダーを育てていく必要があります。

②子どもの読書活動推進

子どもが本に親しみ、読書習慣を身につけることで、多様に変化していくこれからの社会で人生をより深く「生き抜く力」を身につけることができるよう、家庭、地域や学校・園などが協力して読書環境の整備に向けて重点的に取組むため、「第4次野洲市子どもの読書活動推進計画」を令和7年3月に策定します。

学校図書館の運営にあたっては、野洲図書館司書1名を学務課兼務の学校図書館支援員とし、ボランティアの協力を得ながら、各学校図書館の読書環境整備を行いました。また、祇王小学校を「学校司書モデル校」とし、学校図書館支援員が週1回図書室に常駐して学習・読書支援に当たりました。今後は、司書教諭や教員と連携し、子どもの読書意欲を高めるための様々な活動を展開するため、学校司書の配置が必要です。

③図書館

図書館においては、住民一人ひとりの学びや日々の課題解決のために、資料の貸出や資料相談業務を実施しました。令和6年度は、空調設備を更新することにより、市民のサードプレイスとして機能できるよう館内環境の整備を行いました。社会が多様化・複雑化する中、幅広い分野の資料収集をすすめるとともに、今後も適切な資料提供を行えるようサービスの充実を図る必要があります。

④文化歴史

文化財に関わっては、江戸時代初期の徳川将軍の上洛御殿である「永原御殿跡」(国史跡)の保存整備に向けた4事業(本丸内の土地購入、本丸「御年寄衆之湯殿」の発掘調査、土塁の修復工事、「永原御殿跡フォーラム」や「発掘体験」等の公開活用事業)を進めてきました。活用事業のフォーラムは4回目の開催であり、史跡を活用したまちづくりについてシンポジウムを3月9日に開催しました。

野洲市文化財保存活用地域計画策定の取組みは2年目にあたり、ワークショップを2回開催し、市民参加者に対して文化財を紹介し、触れてもらう形で計画への意見を得ることができました。

博物館では、秋期企画展「北村季吟―芭蕉の師、生誕400年記念―」や、

「夏休み！子ども博物館！」のテーマ展などを実施しました。

2. 令和7年度の具体的な施策

『野洲市教育大綱』の三つの基本目標、(1)子どもの「生き抜く力」を育てます、(2)子どもの「育ち」を支援します、(3)だれでもどこでも学びあえるまちをつくり、により施策を進めます。

また、『野洲市教育大綱』及び『野洲市教育振興基本計画』の次期計画を策定します。

(1) 子どもの「生き抜く力」を育てます

～学校教育を中心として～

- ①「仲間づくり」を大切にした、道徳教育や就学前からの人権教育の充実に努め、いじめや差別を許さない、一人ひとりを大切にした教育を推進します。また、いじめの未然防止のため、子どもたちが自ら考え、行動する主体的な活動や取組を進めます。具体的には、仲間との協働活動や体験学習、ゲストティーチャーを招いての交流の機会を設けます。
- ②児童生徒のいじめや不登校、問題行動、また、教職員の不祥事や体罰問題などを未然に防ぐため、「人権感覚向上シート」を活用した教職員研修の充実を図り、学校・園の初期対応や組織対応の強化に努めます。さらに、スクールロイヤーや学校支援員による支援も継続します。
- ③SSR（スペシャルサポートルーム）の取組を推進し、教室に入りにくい子どもたちの居場所として、学びを保障する場とします。スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーを活用し、早期に適切な支援ができるよう努力します。
- ④英語指導助手（ALT）を1名新たに配置し、中学校中心に派遣します。英語による活発なコミュニケーションの機会をつくることで、生徒の英語教育への興味・関心を高め、異文化理解を深めていきます。また、学校司書を1名配置し、学校図書館の運営・管理や教育活動の支援を行うなど、よりよい学校図書館を目指します。
- ⑤コミュニティ・スクールを通じて、地域みなさんと共に子どもたちが将来の夢や希望をもてる教育活動を推進します。また、その成果を市民に積極的に発信するとともに、活動を支える人材の育成に努めます。
- ⑥教育研究所は、全国教員研修プラットフォームを活用し、いつでもどこでも研修を受ける機会が設けられていることを生かしながら、本市でも独自の研修を企画・考案し、取り組んでいきます。また、各学校では、研修履歴を活用した対話に基づく受講奨励を促進し、主体的な教員の学びを支援し、指導力と授業力の向上に努めます。

⑦野洲市学校施設長寿命化計画に基づき、北野小学校大規模改修工事を進めます。また、中主中学校旧館棟と三上小学校体育館において、衛生面での不安を解消し、子どもたちがより快適で使いやすいトイレの環境へと改善していきます。

さらに学校体育館に空調機器を設置し、熱中症対策と学校の教育環境の向上を図っていきます。

⑧GIGA スクール構想における ICT 機器の活用については、授業での目的に応じた使い分けができるように技能習熟を図るとともに、そのための教員研修体制をさらに強化していきます。また、共同調達による児童生徒の端末の更新を進め、最新の ICT 環境を整備します。

⑨児童生徒の ICT 機器の使用頻度が増えるほど、大人の想定を超えたネットいじめ等の問題が起こる可能性も増えると考えられます。そのため、児童生徒の発達段階に応じた情報モラル教育をさらに充実させていきます。

⑩教職員が働きやすい街「野洲市」を実感し、多くの教職員が「野洲市で働きたい」と思うようなワークライフバランスを考えた働き方改革を推進します。子どもたちと向き合う時間の確保や創造的に教育を進めることができるよう取り組みます。80時間を超える超過勤務をしている教員をなくし、45時間を超えて働く教員の割合も減らすよう、学校と地域、教育委員会が一体となって教職員の働き方改革を推進します。

⑪学校給食センターの施設改修工事について、最終年度となり令和 5 年度からの取組を引き続き進めるとともに、令和 7 年度からの調理業務等の一部民間委託を進め、安全安心な学校給食を安定的かつ持続的に提供します。

(2) 子どもの「育ち」を支援します

～学校・家庭・地域が一体となって～

①家庭や地域と連携し、子どもたちの基本的生活習慣の確立に向けた啓発を進めます。また、その一環として「愛の声かけ運動」などのあいさつ運動を推進します。

②ふれあい教育相談センターの充実を図り、不登校やいじめの問題を抱えている子どもや保護者を対象に、不安や悩みについての相談に努め、学校に行けない、行きにくい子どもたちを支援します。

③野洲市青少年育成市民会議を中心として「地域の子どもは地域で守り育てる」機運を高めるとともに、守山野洲少年センターをはじめ関係団体と連携・協力し、青少年の健全育成に努めます。

④各コミュニティセンターで地域の人々が運営される「地域子ども教室」において、子どもたちの体験学習の場としての支援を続けます。

⑤地域とともにある学校・園というコミュニティ・スクールの理念を実現させるために、地域学校協働活動を軸としながら、地域みなさんと協働して教

育活動を進めていきます。

- ⑥家庭教育に悩みや不安を抱える家庭への訪問、相談など子育て家庭への支援を行うため、「家庭教育支援員」の配置を継続します。児童生徒の登校支援などを行い、家庭の環境や学校の状況に応じた活動を実施していきます。また、学校に行きにくい子どもたちの中で個別に支援が必要な児童生徒に対して、学習や生活の支援を継続して実施します。ふれあい教育相談センター内に限らず、家庭を訪問し、ご家庭近くの公共施設を利用してアウトリーチ支援を進めます。

(3) だれでもどこでも学びあえるまちをつくります

～誰もが生涯にわたって成長し心豊かに～

- ①市民に学習機会を提供するため、出前講座の実施や生涯学習カレッジを開催し、生涯学習を推進します。
- ②図書館は、市民の必要とする資料と情報を提供することにより、知る自由・学ぶ権利等を保障する機関として、新鮮で魅力ある資料を収集し市民のニーズに応えます。人と本・情報を結ぶ専門職である司書が能力を発揮し、窓口での相談業務の質の向上に努めるとともに、多様な資料展示を通して市民と本との出会いの場を創出するよう努めます。子どもが読書に親しむ機会を提供する取組としては、小中学校の学級文庫用図書セットの巡回事業や、就学前からの「読み聞かせ」事業を継続・発展させます。また引き続き、野洲駅に設置した予約本受取ボックスの利用促進を図るとともに、野洲市に住む誰もが利用しやすい図書館サービスの実現を目指します。
- ③国史跡「永原御殿跡」は、地域と協働して史跡の発掘調査や保存整備工事、公開活用事業を継続します。

野洲市文化財保存活用地域計画策定の取組は、3年目を迎えます。文化庁認定などを記念して、市民シンポジウムなどの行事を開催します。

博物館では、これまで市内で約50年間実施してきた埋蔵文化財発掘調査を総括する企画展など、地域の歴史や文化を時節にふさわしいテーマにより、わかりやすく紹介する展覧会を開催します。